

びとつびとつ丁寧な手作業 にこだわるあま市の刷毛作り

現在、刷毛職人の減少とともに刷毛の生産量も減りつつあるが、それでもあま市では国内生産量の約7割を占めるといふ。株式会社はけ屋では8人の従業員で、1日平均約1000本、年間25万本もの刷毛を出



荷している。実はここで作られる刷毛はすべて職人さんの手作業によるものだということをご存じだろうか。

刷毛の使い心地を左右する毛の素材でよく使われるのは豚毛、山羊毛、馬毛の3つ。豚毛はコシが強く毛先が柔らかいのが特徴。山羊毛は毛質が柔らかく塗料の含みがよいとされている。馬毛は部位によってさらに特徴があり、振毛(たてがみの毛)は塗料の含みがよくやわらかい。馬蹄毛(蹄の周囲)は細筋でしなやかだが弾力性が良い。尾の産毛である天尾(尾毛)は耐水性、弾力性に優れ、最高級品とされている。刷毛作りはどこに何を塗るのかという用途に応じてこれらの毛をブレンドするところから始まる。ブレンドされる毛の割合は、仕入れた毛の状態なども考慮しながら、職人の長年の経験から調合。職人の腕の見せ所のひとつだ。その後、プレスにかけられ、毛のくせを伸ばし、束にして揃える毛揃え作業が行われる。実はこれらの毛はすべて根元側と毛先側の二方向で揃えられている。刷毛の毛先は長さを揃えるためにカットされているのではなく、毛先が揃うように整えられており、これも熟練した技が必要となる。さらに束ねられた毛先側をローラー研磨紙にあて、毛先1本1本にとがりをつけるのだ。これは中国などの輸入品では行われていない作業。日本製ならではのこだわりの作業だ。こうして整えられた毛束はようやく木柄につけられ、刷毛へと仕上がっていく。



吉川修司代表取締役

株式会社はけ屋ではこれらの作業を分担して行っているが、どの従業員も一連の作業はこなせるといふ。職人として一人前になるには3年から5年の修行が必要というが、天然の毛を自由に扱うこと、毛玉を適切な位置に板付けするのは、経験を積んだ職人でさえも難しく、特に神経を使う作業という。

「だからこそ、私たちは自分たちが作った製品は自信を持ってお届けしています」と吉川社長。手作業で丁寧な作られた刷毛だからこそ、多くの方の細かいオーダーに 대응することができるのだ。あま市の刷毛は塗装用だけでなく、漆職人や料理人など全国に愛好者がいる。100年かけて住民同士が技術を磨き、守り続けてきた刷毛作り。あま市のブランドとして確立し、今後も技術が継承し続けることを願う。

【取材協力】株式会社はけ屋

あま市西今宿狐海道140番地

◆紙巻き

刷毛1本分に分けられた毛を紙で巻く



◆板付け

紙巻きされた毛束を木柄にはさむ



◆綴じ

木柄の溝に添って穴をあけ、針金で綴じる



◆接着剤注入

綴じられた毛の株元に接着剤を注入



◆はんさし

鋭利な刃物で、抜け毛を取り除く



◆完成

完成した刷毛たち。毛の部分にセロハンを巻いて包装し、出荷へ



あま市地場産業

刷毛

国内生産量の約7割の刷毛を生産しているあま市。刷毛がなぜあま市の地場産業となったのか。

愛知刷毛刷子商工業協同組合理事長であり、

株式会社はけ屋代表取締役である吉川修司氏に

あま市の刷毛ならではの魅力を聞いてみた。



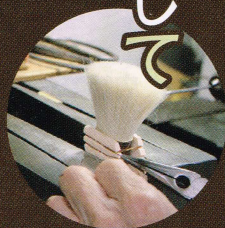
一組の夫婦から始まった 甚目寺地区の刷毛産業

あま市の中でも刷毛産業が盛んな甚目寺地区。今から100年ほど前の大正4年、山崎政三郎つた夫妻が、大阪で刷毛作りの技術を学び、持ち帰ったことがそもそもの始まりだと伝えられている。当時は農業で生計を立てる家が多かったが、農閑期の仕事として刷毛作りは広まり、次第に刷毛職人として開業する者も増えていった。高度経済成長期の昭和45年には、生産日本を誇るまでに成長。甚目寺地区には約150軒の刷毛屋があり、およそ2000人もの人が刷毛生産に関わっていたといわれている。しかし、その頃はピークに、その後廃業する人が後を絶たず、現在刷毛屋は32軒にまで減少してしまっただ。その原因を株式会社はけ屋の吉川修司社長はこう話す。

「あま市で作られる刷毛は塗装用が多いんですが、ペンキを刷毛ではなく、ローラーで塗るところが最近増えてきました。そして、中国からの安価な刷毛の輸入が増え、きたことも影響がありますね」。



刷毛はこうして 作られる！



◆ 荒組み

適寸に切り揃えた毛を
混ぜ合わせるように積み重ねる



◆ 混毛

荒組みした毛を混毛機にかける



◆ プレス

プレスして毛のクセを伸ばす



◆ 毛揃え

毛を束にし、
金櫛をよく入れて
揃える



毛先の断面は
カットしたのではなく、
揃えられたもの

(上) 仕入れた状態の馬毛



毛揃えされた毛束
(左) 馬毛
(右) 豚毛
(下) 山羊毛

◆ 先付け

毛先をローラー
研磨機にかけ、
毛先にとがりを
つける



先付け後